

『由比の山城と蒲原城落城』

～由比の戦国時代を一緒に調査致しませんか～

1. 新発見の城跡紹介
城の分析から地域史の研究へ
2. 蒲原城落城と由比
3. 由比の山城と薩埵山陣場群の調査

静岡古城研究会
大木 一幸
令和7年1月18日（土）

1. 新発見の城跡紹介、城の分析

■城の分析という切り口で、地域史の研究が深まる

- ・歴史の研究は「文献（古文書）」と「発掘」が主流
 - 文献…数が多くない
 - 既存の資料から増えにくい
 - 発掘…実施するかどうかは市町村次第
 - ⇒歴史の研究はどうしても停滞していく
- ・「城跡」の分析をすることで新たな調査の切り口を加えることが出来る

【城跡の分析の事例紹介】明見山砦(仮称)の発見

- ・ 令和2年(2020)大木一幸 念願の山城を新発見
- ・ 場所：富士市岩淵
地元では「元明見(もとみょうけん)」と呼ばれている山頂
明治16年まで明見神社があった(その後現在地へ移転)
- ・ 静岡新聞等で掲載
- ・ 詳しい話は静岡古城研究会の機関誌『古城』65号(令和3年)、66号(令和5年)をご覧ください
ホームページから通販で購入可(1冊税込2000円。送料別)

静岡新聞紙面(令和3年7月21日)



- ・ 家族からの反応は薄い

明見山砦

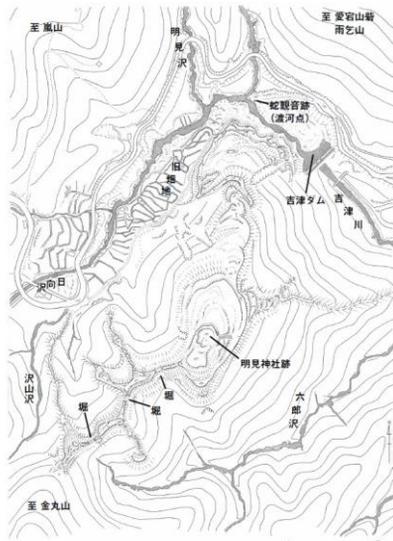


図6 明見山砦縄張図 富士市記録学古津 調査・作成 大光一幸 発刊2年11月23日・発刊4年6月19日



- ・ 明見山砦（標高274m）を東側から見る
- ・ 北～東～南は勾配が急

← 構造を示した「縄張図」を作るのが調査の基本

明見山砦



- ・ 3本あるうちの最大の堀切
- ・ 幅8m、深さ1.5m～2m



- ・ 本曲輪の東には明見神社の階段と石垣が残っている

明見山砦



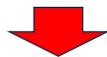
- ・明見山砦（の東の尾根）から、吉津川を挟み500m北の愛宕山砦（標高320m）を見る
- ・相互に視認できる位置関係
- ・愛宕山砦の築城理由はよく分からなかったが明見山砦の発見により、愛宕山と一体的運用をしていたことが想定できる
- ・愛宕山のすぐ左に見えるのは、尾根続きの雨乞山（標高377m）



- ・明見山砦と吉津集落の間（標高108m）から見た東側
- ・富士川の渡河点と富士市が一望できる
- ・明見山砦の山頂（標高274m）からはもっと眺望が効くはず
- ・残念ながら今は雑木により見えない

城の分析のポイント

- ・どちらの方向を向いているか（敵はどこにいるのか）
堀や土塁：大きく深い堀や土塁が向いている方が、敵が攻めてくるので警戒している方向
- ・虎口（出入口）の形態（戦国末期は技巧的）、方向
- ・曲輪の配置（戦国末期は本曲輪を中心とした求心的な構造）
- ・虎口から本曲輪までの城内ルート（戦国末期は複雑で要所に敵の侵入を阻み迎撃する場所を設けている）
- ・城から何が見えるか（街道、隣の城や山、川など）
- ・隣の城までどこの道と繋がっているのか
- ・城の構造だけでなく、周辺地図、郡・国単位の地図で地理的環境を見る



城の特徴を捉えることで地域史が見えてくる

明見山砦の特徴と発見による考察の深堀り

- ・ 東を向いている（敵は富士川方面）
- ・ 富士川や富士川の東側が良く見える
- ・ 渡河点を警戒している位置にある
- ・ 単純に尾根を断ち切った堀切が主の連郭式山城城（古い形態）→運用時期は戦国初期から中期と想定
- ・ 西の尾根道は蒲原城の東・狼煙山へ繋がる
途中に高い山があり蒲原城が直接見えないので、中継時点が想定される
- ・ よく分からない城跡であった愛宕山砦と500mしか離れていないため、一体運用をしていたことが想定できるようになった
- ・ 城に関する伝承が無い→地元領主が運用したのではなく、外部の者が一時的（＝戦争の時）に運用した可能性が高い
- ・ 城を巡る攻防戦の伝承もない
- ・ 周囲にかなり多く存在する合戦の伝承（主に武田氏の駿河侵攻と蒲原城攻め）を再考する必要性が高まった

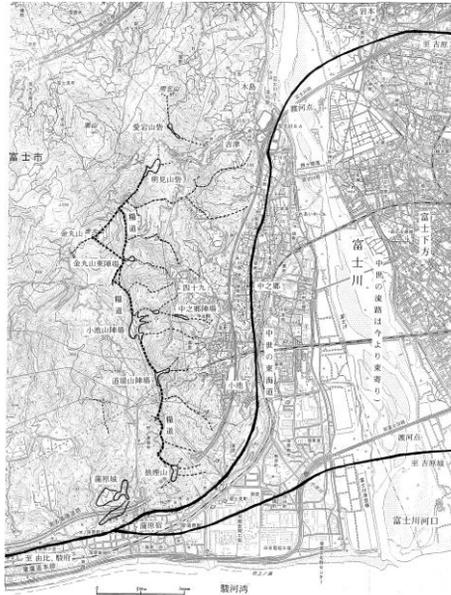
明見山砦の特徴と発見による考察の深堀り

【考察】

蒲原城の支城としての運用が想定される

- ・ 蒲原城と尾根で繋がり地理的に一体化している
- ・ 蒲原城と明見山砦の間は直線で約4km（＝約1里）
隣り合う城の間隔は1里離れているケースが多い
- ・ 蒲原城の東の狼煙山は富士川河口の渡河点（中世の東海道のメインルート）を抑えている
明見山砦も富士川の渡河点（中世の東海道のサブルート）を抑えているため、狼煙山と同じ機能を期待されている
- ・ 蒲原城は東側（富士川や富士市）が全く見えない致命的な欠陥があるが、明見山砦と狼煙山が補う関係性にある

明見山砦から蒲原城までの地形図



【蒲原城からの眺め】



南 蒲原宿が見える



南西 由比、薩埵山が見える



東 金丸山山系が邪魔して全く見えない (致命的欠点)



南東 狼煙山が邪魔で富士川河口さえ見えない (致命的欠点)

明見山砦の考察①→河東一乱との関係の可能性

河東一乱 (今川義元 対 北条氏綱)

- ・天文6～8 (1537～1539) 第一次河東一乱
- ・天文13～14 (1544～1545) 第二次河東一乱

- 家督相続したばかりの今川義元に北条氏綱が反乱・独立し
富士川以東の土地を侵攻し占領
- 今川義元は10年以上かけて取り返した

明見山砦は蒲原城の支城として、今川義元によりこの時期に緊急的に築城・運用されたのではないかと仮説

明見山砦の考察②→蒲原城落城時を考察したら

武田信玄の第二次駿河侵攻 永禄12～13 (1569～1570)

永禄12年12月6日落城。守将・北条新三郎ら戦死、北条軍壊滅
 …蒲原、由比は武田軍に制圧される

■明見山砦周辺に残る戦いの伝承から、明見山砦が再機能していた可能性→古文書無し。伝承を考察する重要性

■蒲原城を落城させた武田勝頼別動隊のルート进行调查

→蒲原城脱出者のルート (重ならないルートになるはず)

→由比のどこを通ったのか …由比の地域史の解明に繋がる

蒲原城から薩埵山周辺地図



永禄12年12月6日蒲原城落城時の脱出ルート

『蒲原城跡総合調査報告書』（2007。静岡市教育委員会）

【鈴木兄弟】蒲原城の金貨を罐子に隠し勘定方と脱出

蒲原城・橋台→（向田川の上を城から新田山まで布橋で繋ぐ布橋伝説）→**新田山**（P136）→**栗木平**（P136。P159）・**寺平**→裏山伝いに**小坂**（桜野の入り口の峠）→**桜野**（P137）

〔こざか。待ち受けの場所。令和6年10月12日見学〕

【北条信三郎の側室と子供（山籠で移動）と数人の家臣】

蒲原城→入山・**山内**→**西山**の分限者・国右エ門のところで小休止→**大日影の沢**→小河内・**和田**の小沼家（小沼氏はのちに北条に改姓。和田には北条姓が20数戸ある）（P137）

永禄12年12月6日蒲原城落城時の脱出ルート

★脱出者の途中のルートが不明確。是非一緒にご考察下さい。
また当時の由比町の伝承をご存知の方は是非教えて下さい。

○鈴木兄弟

- ・長野山(岐山)を山越えし横断し桜野に到達したという伝承が正しいとすると、栗木平からどういうルートが考えられるのか。
- ・桜野薬師堂（当時は今より低地の御堂崎(みどうさき)にあり）は永禄11年暮以降の薩埵山合戦時に戦傷病兵の治療所にあてられたと桜野で口伝。「馬場窪(ばばくぼ)」「覗戸(のぞきど)」「馬場(ばんば)」という古戦場関係の地名が薬師堂付近にあり。

（『由比町史』P919）

→鈴木兄弟が他の脱出者と別行動をとったことに関係があるのか？

永禄12年12月6日蒲原城落城時の脱出ルート

- 側室（木内氏か(故 木屋・渡邊俊介氏談話)）
- ・栗木平から山籠で山内(やもうじ)までのルートはどこか。
 - ・山内から西山寺に移動したということはまだ武田軍が来る前（12月5日より前。5日に武田軍は蒲原城を素通りして由比、薩埵峠へ移動している）の話と考えられる。定説（6日落城時と異なる（普通は事前に側室らを逃がすでしょうが））。
 - ・西山の分限者（=長者、富豪）国右エ門とはどこの誰か。当時の西山の有力者の名字と当主は誰か。
 - ・薩埵山のどこをかって和田へ移動したのか（北条軍の大藤政信、太田十郎。駿河衆の興津摂津守、岡部和泉守らが陣場群を守備）

桜野



桜野・小坂。
鈴木兄弟が桜野に
逃げた「待ち受け
の場所」にある
大日如来。



鈴木家に
伝わる
カンス



鈴木家から東の下り坂を見ると
御堂崎（薬師院があった）
がすぐ見える

桜野



- ・桜野は要害性の高い集落
- ・桜野沢川を渡り、急勾配の小坂（こざか）を登らないと集落に着かない
- ・約1km南の槍野(うつぎの)の東の尾根上に桜野の見張所があり桜野と連絡し合えた→両村は連携
- ・クナ山、由比、身延道、浜石岳を直接見通せる
- ・古地名は南北朝時代の桜野合戦に因む可能性もあり

城を考察する重要なポイント ～いつの時代に運用されたのか～

- ・城は戦争の時にしか運用されない（原則）
- ・蒲原を含めた庵原郡で戦乱の時代が候補

由比も同じ状況であると考えられる

- ①観応2/正平6（1351）観応の擾乱 薩埵山合戦（桜野の戦い）
- ②永享5（1433）永享の内訌 今川範忠と弟・千代秋丸の家督争い
- ③長享1～2（1488～1489）今川氏親と小鹿範満の家督争い
- ④天文5（1536）花蔵の乱 梅岳承芳（今川義元）と玄広恵探の家督争い
- ⑤天文6～8（1537～1539）第一次河東一乱 今川義元 対 北条氏綱
- ⑥天文13～14（1544～1545）第二次河東一乱 今川義元 対 北条氏綱
- ⑦永禄11～12（1568～1569）武田信玄の第一次駿河侵攻 対 今川氏真
- ⑧永禄12～13（1569～1570）武田信玄の第二次駿河侵攻 対 北条・今川軍
- ⑨天正10（1582）武田氏（勝頼）滅亡

ここまでを踏まえて由比の山城を考える

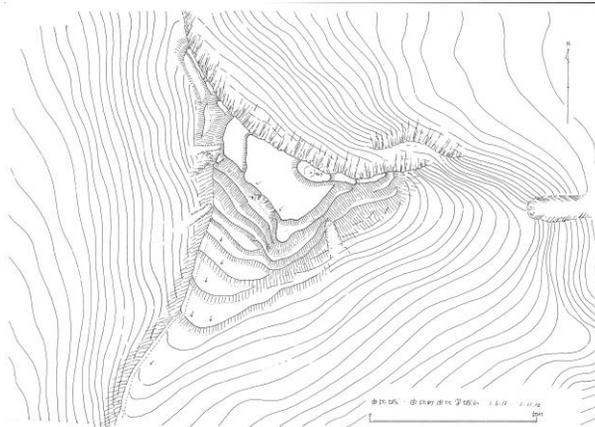
由比町内で現在知られている山城

- ①由比城
- ②川入城（常円寺城）
- ③上野城
- ④矢田砦
- ⑤篠原城
- ⑥薩埵山陣場群（シャンバ砦含む）

…⑤⑥は平成14年（2002）に清水市教育委員会が発表
（静岡古城研究会が調査担当）

いずれも戦国時代前半に
あたるため、技巧的ではなく
比較的単純な構造

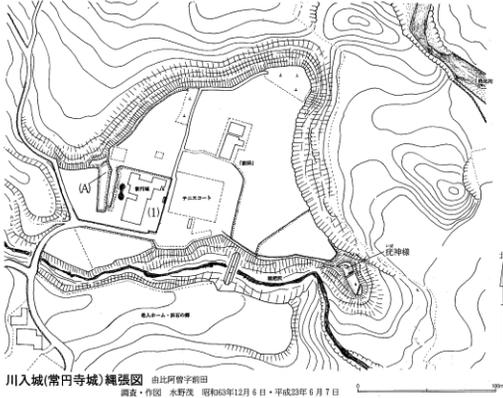
①由比城



平成元年土取り時の縄張図

- ・由比氏の惣領家の本城と考えられるが**実態は不明**
- ・南西の尾根先に飯田八幡宮 東海道を扼す
- ・標高102m、比高90m
- ・東海道を眼下に見下ろし抑える要衝にあり蒲原城と八幡平のちょうど中間に位置する（それぞれ約3km。視認可能）
地理的に由比町随一の場所
- ・平成元年からの土砂採取で**完全消失**
- ・**発掘調査の成果は不明**
→**成果資料ご存知の方は是非ご一報下さい**

②川入城（常円寺城）



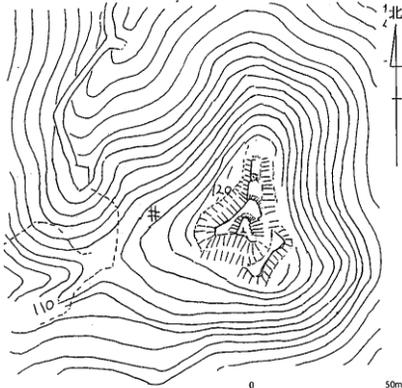
- ・複数系統あった由比氏の居館跡か
- ・永禄11年（1568）武田信玄の第1次駿河侵攻で攻められ落城した伝承があるが確たる資料は無く**詳細不明**
- ・西北西500mに位置する227mの山が、川入城の詰の城ではないかと調査したが、山城では無かった
- ・中世以前から機能していた由比川沿いの身延街道の途中にあり眺望の効く高台（65m）にあるため身延道の関の機能の可能性が高い
- ・長野山から由比川河口までは眺望が効き、八幡平も視認できるが、由比城は直接見えない

③上野城



- ・『駿國雑誌』によれば上野河内守の城とされる（上野河内守がどんな人物か不詳→御存知の方は是非教えて下さい）
- ・北野神社背後の台地（現在は畑）とされているが、かつては水田であったとのことで城跡としては疑問
- ・由比城、薩埵山方面と眺望が効くため、現・神社付近に武士の屋敷が見張所があったかも知れないが裏付けるものはない

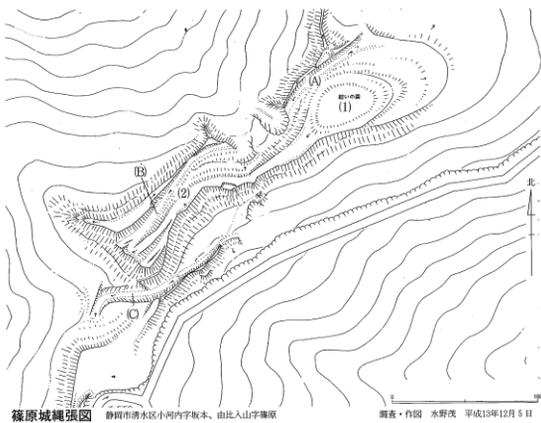
④矢田砦



矢田砦縄張図 調査・作図 川村晃弘 平成23年12月31日

- ・『駿國雜誌』によれば、福島淡路守の砦とされ、砦の最上部にある宝篋印塔の一部が福島淡路守の墓とされているが、ミカンの段々畑であり遺構は全く不明
- ・周囲の高い山から見下ろされてしまう独立した小山の山頂（123m）であり、主要な街道が通っている訳でもないため、城や軍事施設である可能性は低い

⑤篠原城



篠原城縄張図 静岡市清水区小内字坂本、由比入山字篠原

調査・作図 水野茂 平成13年12月5日

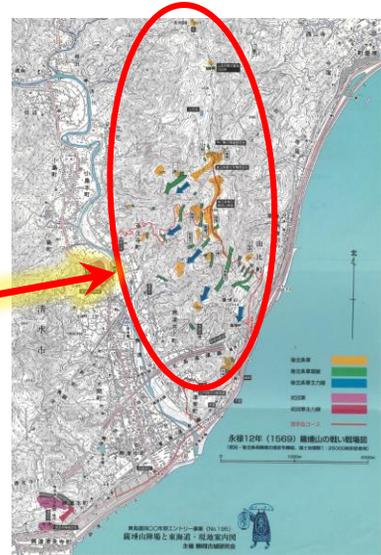
- ・清水市の薩埵山陣場群の調査で発見
- ・所在地名が篠原のため篠原城と仮称
- ・槍野集落の西北西500mの山頂（標高575m）に位置
- ・城郭遺構であるがはっきりしない
伝承も何もない
- ・静岡古城研究会では、永禄12年に蒲原城を守備した北条軍が構築、運用した可能性を指摘
- ・別の考え方：永禄11年に武田本隊が青木峠から陣馬山へ進軍した際に武田軍が構築した中継基地の可能性も

⑥薩埵山陣場群



・旧清水市との境
浜石岳－薩埵峠
の山脈上に
12ヶ所もの遺構
が存在

(但し旧清水市側しか
調査しないので、
由比側の遺構無し)



⑥薩埵山陣場群

下記①～⑫が新報告された遺構 「カッコ」内は地名

- ①久留ハ遺構 「陳場」 「久留ハ」 「穴ヶ沢」 「池の尻」 ※堀あり
- ②一ノ庫遺構 「一ノ庫」 「池ノ尻」
- ③陳場遺構 「陳場」 「青笹」 「抱石」 「鯨ノ平」 ※大堀切あり
- ④西堀切遺構 「西堀切」 「境尾羽根」 「抱石」 「大久保」
- ⑤陳場南尾根堀切遺構 「下山」 ※堀あり
- ⑥陳場口遺構 「陳場」 「陳場口」 「西堀切」 「大久保」 「境尾羽根」
- ⑦陳場口尾根一騎掛け遺構 「陳場口」 「西堀切」 「大久保」 「大沢入」
- ⑧廓遺構 「廓」 「大久保」
- ⑨東堀切遺構 「東堀切」 「大平」 「釜場」
- ⑩木梨原遺構 「木梨原」 「内多ノ後」 「上内多」 ※堀あり
- ⑪シャンバ砦 「シャンバ(清水側)」 「茅場(由比側)」 ※明確な城郭遺構
- ⑫篠原城 「篠原(由比側)」 「坂本(清水側)」 ※堀あり

■薩埵の本城 「薩埵の内洞」 「小糸川」 (古城か?) ※明確な城郭遺構

城郭遺構に関
する地名が
あっても、必
ずしも現在遺
構が確認でき
るわけではないが、地名が
あれば城郭遺
構である可能
性がある。

⑥薩埵山陣場群

- ・発見の発端は地元在住の佐野敏郎氏（静岡県地域史研究会）が所有していた薩埵山山稜の地名が載っていた古地図から城郭遺構が分かるという情報が、水野茂氏（静岡古城研究会。当時会長）にもたらされ、佐野氏の案内で水野氏ら静岡古城研究会調査員が調査したことがきっかけ。

清水市教育委員会から調査予算を受け、本格的な調査となった（平成12～14年）

→当時、由比町エリアはあまり調べていない。

由比町側の資料を収集しておらず、かつ清水市の調査依頼であったため清水側を優先した。

由比町側には何らかの遺構がある可能性がまだ十分ある。

最後に／質疑応答

■由比町側の「古地名」「古地図」等をお持ちの方は是非教えて下さい。

- ①観応2/正平6（1351）観応の擾乱 薩埵山合戦（桜野の戦い）
 - ⑦永禄11～12（1568～1569）武田信玄の第一次駿河侵攻
 - ⑧永禄12～13（1569～1570）武田信玄の第二次駿河侵攻
- に関する歴史解明を掘り起こせる可能性があります！

★由比観光ボランティアガイドの会と静岡古城研究会が協力して調査・成果報告まで繋げられればこれほど望ましいことはありません！

（なお大木が多少調べましたが今のところ遺構の発見なし）

ご清聴ありがとうございました。

終わり

【主催】

由比観光ボランティアガイドの会
会長 古牧資晟

【発表者】

静岡古城研究会
理事 大木一幸
yag8x5sp@tg.commufa.jp